マーケットハイライト

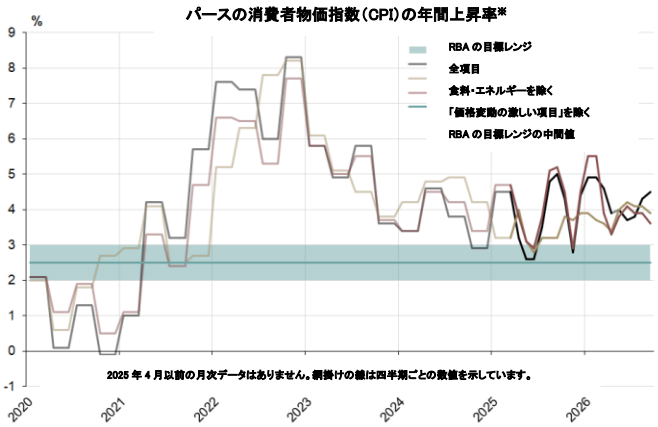
２０２６年10月

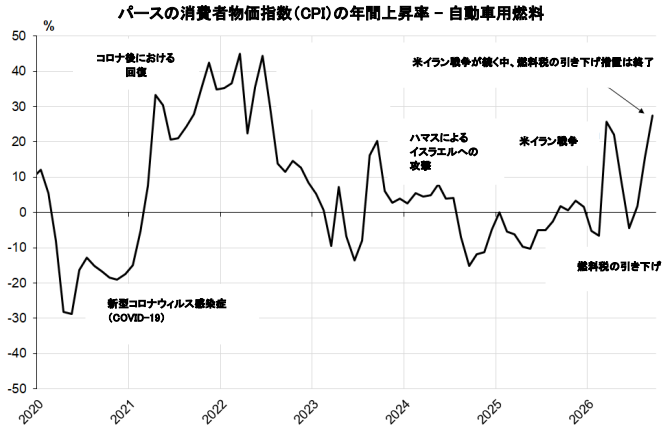
西オーストラリア州のデータハイライト

- オーストラリア準備銀行（RBA）は 11 月、政策金利を 25 ベーシスポイント引き上げ、4.85%とした。
- パースの消費者物価指数（CPI）は 9 月に 0.6%上昇し、前年同月比では 4.5%の上昇となった。
- 西オーストラリア州の雇用者数は 9 月に 2 万 1,700 人急増し、失業率は 4.2%となった。
- パースの住宅価格は 10 月に 1.7%下落した。これに先立ち、9 月の住宅着工許可件数は 8.7%減少していた。

パースの CPI – 第 3 四半期および 2026 年 9 月

- パースの CPI は 9 月に 0.6%上昇し、消費者物価の年間上昇率は 0.2 パーセントポイント上昇して 4.5%となり、6 カ月ぶりの高水準を記録した。これに対し、各都市の年間インフレ率はメルボルンの 4.0%からホバートの 5.3%の範囲にあり、オーストラリアの主要都市全体の加重平均は 4.3%となっている。
- 消費者物価の年間インフレ率の上昇は、主に自動車用燃料価格の高騰によるもので、9 月までの 1 年間で 27.4%上昇し、2022 年半ば以来の最大の上昇幅を記録した。輸送費全体は前年同月比で 10.9%上昇し、年間インフレ率の上昇に 0.4 パーセントポイント寄与した。
- 年間インフレ率の上昇に寄与した 2 番目に大きな要因は「レクリエーション・文化」で、5.5%の上昇となり、0.2 パーセントポイントを押し上げた。このカテゴリーの価格上昇が加速した主な要因は、ほぼ休暇中の旅行費や宿泊費の高騰によるものであった。一方、「ゲーム・玩具・趣味」の年間価格上昇率は、人工知能（AI）革命に伴うメモリやストレージ部品のコスト高を背景に、前年比 15.9%と依然として高い水準を維持した。
- 物価上昇率の加速は、住宅費の上昇ペースがわずかに鈍化したことや、衣類・履物の年間物価上昇率が減速したことによって、一部相殺された。
- 上昇ペースは鈍化したものの、住宅費の上昇率は前年同月比 5.0%と堅調な水準を維持しており、CPI 構成比が大きいことを踏まえると、9 月までの 1 年間のインフレ率の約 4 分の 1 を占めていた。 新築住宅の価格は前年同月比 6.7%上昇し、これは 6 カ月ぶりの低水準ではあるものの依然として堅調な伸びを示した。一方、家賃の上昇率は前年同月比 5.3%にとどまり、水道・光熱費の上昇率は前年同月比 3.0%へと鈍化し、月次 CPI 統計の歴史上最も低い伸び率となった。
- コアインフレ指標のうち、食品とエネルギーを除く前年比インフレ率は 3.9%に低下し、自動車用燃料や青果物などの「価格変動の激しい項目」を除いた前年比インフレ率は 3.6%に低下した。いずれも 5 カ月ぶりの低水準となった。
- 物価上昇率は、財（前年同月比で 0.3 パーセントポイント上昇の 4.6%）とサービス（前年同月比で 0.2 パーセントポイント上昇の 4.4%）の両方で加速が記録された。貿易財の物価上昇率も 1.2 パーセントポイントと著しく加速し、前年同月比で 4.8%と 6 ヶ月ぶりの高水準を記録した一方、非貿易財は 0.2 パーセントポイント鈍化し前年同月比 4.4%となった。
- 生活必需品の価格上昇率は加速（前年同月比で 0.4 パーセントポイント上昇し 5.1%）した一方、非必需品の価格上昇率はわずかに鈍化した（前年同月比で 0.1 パーセントポイント低下し 3.6%）。





マーケットハイライト

２０２６年10月

オーストラリア金利（%）			外国為替と株式		
RBA 政策金利目標	4.85	(↑25 pt)	AUD/USD	0.7032	(↑1.2%)
90 日銀行手形	4.90	(↑13pt)	AUD/JPY	110.80	(↑1.3%)
連邦政府 3 年国債	4.81	(↓12pt)			
連邦政府 10 年国債	5.12	(↓23pt)	ASX200	8908	(↑119pt)

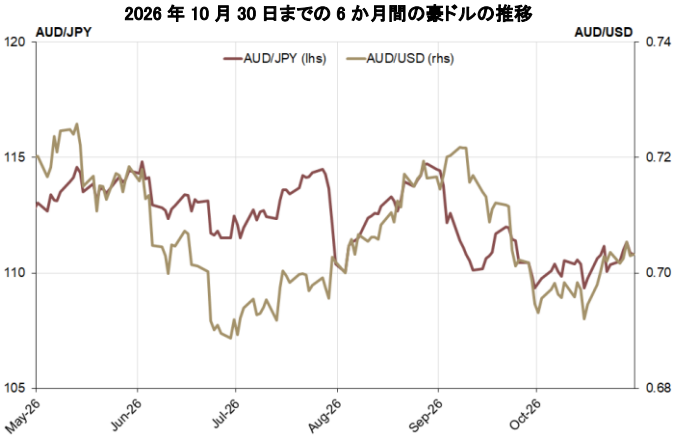
市場概況

- オーストラリア準備銀行（RBA）は 11 月初旬、政策金利目標を 25 ベーシスポイント引き上げて 4.85%としたが、さらなる金融引き締めは市場価格に部分的にしか織り込まれていない。
- 10 月、オーストラリア国債利回りは、政策金利引き上げへの期待が再燃し、90 日銀行手形金利が上昇したにもかかわらず、世界の国債利回りに追随して低下した。 オーストラリアや他の多くの先進国における債券利回りの低下は、この新技術に対する楽観論が過度であったのではないかという懸念から、AI 関連企業の株式が世界的に売られたことを受け、安全資産への資金流入が生じた結果である。WATC 債券と連邦政府債の利回りスプレッドは若干拡大したものの、他国と比較して依然として低い水準にとどまった。
- 世界的な株価の急落が広がる中、10 月の豪ドルは米ドルおよび日本円に対して上昇した。豪ドルは、政策金利引き上げへの期待の高まりに加え、中東紛争の拡大を背景とした一部の商品価格、特に化石燃料価格の上昇により下支えされた。
- ハイテク株の構成比が比較的低いオーストラリアの ASX 200 指数は 10 月、前月の下落から一転して月間 1.4%の上昇を記録し、米国の同種指数を上回るパフォーマンスを示した。10 月は、情報技術および素材セクターが顕著な例外となったものの、ほとんどのセクターで上昇が見られた。

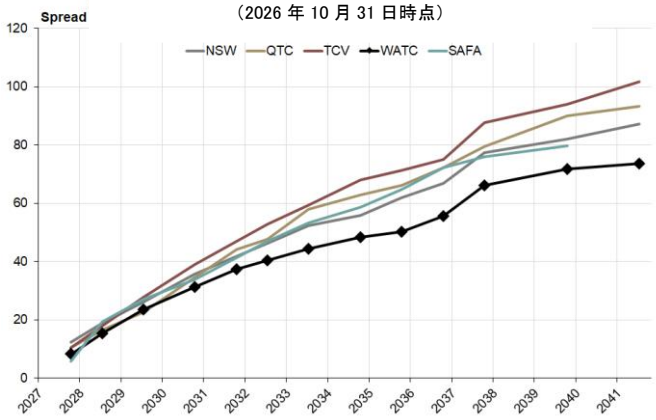
WATC 指標銘柄債券の利回り				
満期	利回り 2026 年 10 月 30 日		AGS スプレッド 2026 年 10 月 30 日	
2027 年 10 月 21 日	5.07	(↑3 pt)	+8 pt	(↑1pt)
2028 年 7 月 20 日	5.08	(↓3 pt)	+15 pt	(0 pt)
2029 年 7 月 24 日	5.07	(↓7 pt)	+23 pt	(↑1pt)
2030 年 10 月 22 日	5.14	(↓6 pt)	+31 pt	(↑5 pt)
2031 年 10 月 22 日	5.23	(↓9 pt)	+37 pt	(↑6 pt)
2032 年 7 月 21 日	5.29	(↓9 pt)	+40pt	(↑6 pt)
2033 年 7 月 20 日*	5.38	(↓11 pt)	+44 pt	(↑6 pt)
2034 年 10 月 24 日	5.53	(↓13 pt)	+48 pt	(↑7pt)
2035 年 10 月 24 日*	5.60	(↓13 pt)	+50 pt	(↑8pt)
2036 年 10 月 22 日	5.69	(↓13 pt)	+56pt	(↑9pt)
2037 年 10 月 21 日	5.81	(↓15 pt)	+66pt	(↑9pt)
2039 年 10 月 24 日*	5.94	(↓14 pt)	+72pt	(↑9pt)
2041 年 7 月 23 日	6.02	(↓15 pt)	+74 pt	(↑8pt)

*グリーンボンド。

2026 年 10 月 30 日までの 6 か月間の豪ドルの推移



オーストラリア連邦政府国債と各州政府債の利回り格差
（2026 年 10 月 31 日時点）



WATC 指標銘柄債券の利回り

